

いま沖縄のギター界が、全国の関係者から注目をあびています。というのも、あの天才ギタリストと評価されている、山下修や山口和仁を生みだしたレベルの高い九州ギター音楽コンクールで1977年第23回コンクールの牧野哲仁の三位入賞をかわきりに、東風平朝盛、上原章とつづき、昨年は一位(大城忠)、二位(新里欣伸)と沖縄勢が占めたのであります。しかも驚くべきことに、このギタリストたちはほとんど独学で研鑽を積み上位入賞を果たしたということです。

県ギター界を代表して、この5人のギタリストたちが、1日も早く全国各地で演奏活動ができるよう頼ってやみません。

(今回のプログラムは初めてギターの演奏会に足をはこんでくださる方にも、ギターの持つ魅力を知ってもらえるよう考慮してみました。

第29回九州ギター音楽コンクールが、去る10月10日、福岡市の大博多ホールで催された。

5月に行なわれた第1次予選(課題曲:パガニニ^{クソナチネ}テープ審査)の結果、第2次予選に残ったのは22名であった。出場者中11番の男性のみがこの段階で満票をとり、4番の男性が7票でそれにつづいた。

本選の審査は、審査員各自が出場者に順位を付すことにより総計で優劣をはかる(増沢方式)がとられた。その結果、1位5票の最高得点を得たのは4番で、たしかにこの人は課題曲トゥリーナのテンポとリズムが^ハ良適であったほか、自由曲ソロにおいて抜群の音楽性を示した。序奏の歌い口からして聴き手を惹きこむ力を持ち、主部の変奏も一貫してみごとであった。わずかとはいえミスがあったが、それによって“流れ”を損わない強靭さを感じられた。音色も美しく、各声部のバランスも良かった。

2位に入ったのは11番、第2次予選で精彩を見せたこの人の課題曲も劣らず優秀で表現力に富み、自由曲も美しく鳴っていた。

入賞発表とともに明らかにされた奏者の名前と出身地は次のとおりである。

1位(4番):大城忠(沖縄) 2位(11番):新里欣伸(沖縄)

3位(14番):坂元敏浩(長崎) 次席(1):尾崎俊徳(長崎)

はからずも、1位、2位を沖縄勢が占めたのである。少なくとも本選出場者に関していえばこのコンクールは高い水準にあり、入賞者は近い将来、全国的規模での演奏活動に入ることも充分可能だと私は判断している。

濱田滋郎

「現代ギター」12月号より



PIANISSIMO®

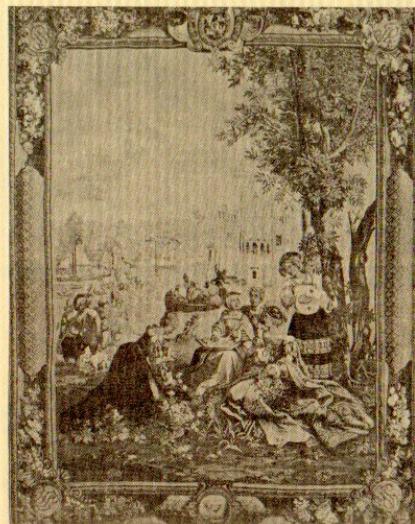
いい音楽と出会うと永遠を信じたくなる

沖縄市園田バス停となり(UFOバーガー2F)

電話: 2-7252番

GUITAR JOINT-CONCERT

ギター ジョイント・コンサート



1984年3月9日(金) 午後7時

宜野湾市民会館(大ホール)

主催/中部労音

共催/沖縄県ギター連盟



(左から牧野哲仁・上原 章・新里欣伸・大城 忠・東風平朝盛)

演 奏 者

牧野 哲仁

昭和52年 第23回九州ギターコンクール3位
昭和54年 第1回ギターリサイタル
昭和57年 第2回ギターリサイタル
現在 沖縄ギター音楽院講師

東風平 朝盛

昭和52年 沖縄県ギターコンクール独奏部門2位入賞
昭和53年 同ギターコンクール、独奏部門、重奏部門とも1位
昭和53年 第1回ギターリサイタルを開く
昭和53年 第24回九州ギターコンクール2位

上原 章

本間良博氏に師事
鈴木巖氏に師事
昭和56年 九州ギターコンクール3位
昭和57年 九州ギターコンクール1位
現在 沖縄ギター音楽院講師

大城 忠

昭和53年 県ギターコンクール中級1位
昭和54年 県ギターコンクール上級3位
昭和56年 九州ギターコンクール次席
昭和58年 九州ギターコンクール1位
現在 沖縄ギター音楽院講師

新里 欣伸

昭和54年 学校音楽コンクールの部1位
昭和56年 県ギターコンクールの上級1位
昭和57年 県ギターコンクール招待演奏
昭和58年 九州ギターコンクール2位
現在 沖縄ギター音楽院講師

PROGRAM

合奏 テレマン四重奏曲

大 城 忠

- F・タレガ アルハンブラの思い出
オタロニア民謡 盗賊の唄
リヨベート編 歌と踊り第1番

東風平 朝 盛

- E・グラナドス スペイン舞曲第5番
I・アルベニス アストウリアス

新 里 欣 伸

- M・ポンセ 南のソナチネ



二重奏 ていんさぐの花・なが山の神仏・耳切り坊主・カノン

上 原 章

- A・P・バリオス 郷愁のショーロ
B・テルツイ 雪のパストラーレ

牧 野 哲 仁

- A・ルピーラ 禁じられた遊び
M・トロバ マドローニヨス
A・P・バリオス マシーシャ

合 奏 ——芭蕉布